

平成 22 年度 需 要 実 績 見 込

(社)日本塗料工業会 事務局作成

平成 22 年度は、平成 22 年 12 月までの実績及びその後の業況観測アンケートから、塗料需要の実績見込は 1,441 千トン（前年度比 102.0%）と予測した。（平成 21 年度実績は VOC 排出実態推計から 1,413 千トンとした。）

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比 (%)	前年度比算出根拠
建物	379	100.5	住宅エコポイント制度導入されるも、住宅改修の動きの鈍化傾向と相まって横ばい。
建築資材	73	102.8	昨年度の景気減速による買い控えの反動もあり需要が回復。
構造物	80	96.4	公共工事低迷、設備投資減が影響し前年割れ。
船舶	113	96.6	世界同時不況による低迷から抜け出せず。
道路	新車	224	エコカー補助金、エコカー減税等の影響もあり、単年度ベースとしては上向き。
車両	補修	45	市場全体が飽和気味で横ばい。
電気機械	64	108.5	家電エコポイントの影響等により、単年度ベースでは増加。
機械	52	110.6	建設機械、工作機械ともに新興国向けが回復。
金属製品	92	103.4	オフィス家具、パーティション等の需要が回復。
木工製品	23	100.0	消費者の節約意識は依然として根強い。
家庭用	34	100.0	消費者の節約意識は依然として根強い。
輸出	89	108.5	新興国を中心とした海外需要が増加。
路面標示	77	97.5	公共工事抑制が続き、需要は前年割れ。
その他	96	100.0	各分野で世界同時不況の影響いまだ大きい。
合計	1,441	102.0	世界同時不況の影響はいまだ強いが、単年度ベースでは各種経済対策等により緩やかに回復。

注) 経済産業省統計や塗料製造業実態調査での品目「シンナー」については、塗料用として使用している 40%分を組み入れて計算した。

平成 23 年度 需 要 予 測

(社)日本塗料工業会 事務局作成

平成 23 年度は、公表されている政府、民間の経済見通し及び主要需要産業の 23 年度の景気動向予測、並びに業況観測アンケートから、1,458 千トン（前年度比 101.2%）と予測した。（平成 22 年度需要実績見込は 1,441 千トンとして前年度比を計算した。）

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比 (%)	前年度比算出根拠	
建物	385	101.6	塗替工事は緩やかな回復傾向にあるも、新築工事は減少傾向。差し引き微増と予測。	
建築資材	74	101.4	景気の緩やかな回復傾向に伴って微増と予測。	
構造物	84	105.0	公共工事の回復は見込めないものの、民間設備投資が回復。	
船舶	111	98.2	新規契約船の減少、内需縮小傾向の継続で低迷。	
道路	新車	219	97.8	海外生産比率増加に伴う国内生産台数減少により、需要は微減傾向と予測。
車両	補修	44	97.8	新車の需要減少に伴い、減退と予測。
電気機械	65	101.6	昨年度のような国内需要を喚起するイベントはないが、景気の緩やかな回復により増加と予測。	
機械	54	103.8	新興国への輸出需要による回復が継続。	
金属製品	93	101.1	景気の緩やかな回復傾向に伴って増加と予測。	
木工製品	23	100.0	消費者節約ムード強く、需要は横ばい。	
家庭用	34	100.0	消費者節約ムード強く、需要は横ばい。	
輸出	98	110.1	アジア圏を中心に海外需要の増加が継続。	
路面標示	77	100.0	公共工事抑制継続により、需要は横ばい。	
その他	97	101.0	各分野での需要は微増と予測。	
合計	1,458	101.2	海外生産拠点シフトに伴う輸出货量増加と、国内需要の減退が相殺されて、総括的には微増。	

注) 経済産業省統計や塗料製造業実態調査での品目「シンナー」については、塗料用として使用している 40%分を組み入れて計算した。

本需要予測は、今回の東日本大震災の前に調査したものです。想定を超える甚大な被害でしたので、現時点予測がつかない状況です。

ご理解の程よろしくお願い致します。

平成 23 年 4 月 18 日記入